

令和5年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公社等名	公益財団法人ふくしま海洋科学館
所管部局	企画調整部文化スポーツ局
担当課	生涯学習課

《評価資料》

1	公社等点検評価表	-----	1
2	付表1 (概要)	-----	2-1
3	付表2 (実施事業)	-----	3-1
4	付表3 (経営状況)	-----	4-1
5	付表4 (経営分析等)	-----	5-1
6	付表5 (組織人員体制)	-----	6-1
7	付表6 (県関与の状況)	-----	7-1
8	別紙1 (県の財政的関与 (支援) の内訳)	-----	8-1
9	別紙2 (役員等の状況)	-----	9-1

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

(1) 経営計画等について

- ① 中期経営計画2019年度～2023年度
- ② 令和4年度財団法人ふくしま海洋科学館事業計画

(2) 成果目標について

東日本大震災の経験を踏まえ、新たに作成した「中期経営計画2019年度～2023年度」の4カ年目となった令和4年度は、1年のうちで最も入館者数の多い8月に医療非常事態宣言が発令されるなど、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、国民の行動制限や経済活動の制限の見直し、全国旅行支援といった経済政策などもあり、昨年度から比べて大きく入館者数を復活することができた。①入館者数、④移動水族館車の実施回数、⑤提携旅館・ホテル等からの送客数の3項目の成果指標については目標値に届かなかったものの、②パスポート保有者数、③幼稚園・学校教育減免者数については目標を達成することができた。原発事故による風評被害の影を落としているものの、震災後では平成25年度に次いで2番目に多い数字となった。

実 績	令和4年度	
	実 績	目標値
①入館者数	58万人	59万人
②パスポート保有者数	7,720人	7,700人
③幼稚園・学校教育減免者数	3.8万人	2.4万人
④移動水族館回数	40回	43回
⑤提携ホテルからの送客数	2.5万人	3.1万人

(3) 事業目標と実績の評価

① アクアマリンふくしまの入館者数は、えっぐの森どうぶつごっこなどの新展示、企画展「絵本すいぞくかん」の開催、新イベント「飼育員と学ぼう アクアマリン調査隊」、当館が保有していた世界最長記録を更新して飼育した「バショウカジキ」の展示など各種展示やイベントが好評を博した。

また、コロナ禍の行動制限や経済活動の制限の見直し、全国旅行支援といった経済政策により、令和4年度の入館者数は前年比74.2%増の584,564人となった。

なお、震災前の平成22年度と比べると、約32.1%の減であった。

② ショップ「ウミノス」および「アクアマリンショップJOHMON」の2店舗の営業により、広い客層の集客・販売の拡充に努めた。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

(1) 来館者へのアンケートを継続的に実施し、来館者の属性や来館のきっかけ、主な立ち寄り先や宿泊地、満足度や意見要望の把握を行っている。

(2) GW期やお盆期間の繁忙期において、駐車場調査を実施し、来館者居住地及び動向の把握に努めている。

(3) 小名浜まちづくり市民会議やばんえつ発見の旅、港会（小名浜港関連の16公的機関）、4社協議会（アクアマリンパーク立地のイオンモール小名浜含む4団体）などの会議等に参加し、地域の団体の一員として地域との連携を深め情報収集等に努めている。

(4) 令和4年度末から、水族館での様々な体験活動を提供する「解説員」を復活させ、当館の魅力のひとつである解説活動に取り組んでいる。来館者のニーズに合わせた解説を

提供できるよう、体験内容を定期的に更新していく。
(5) 猪苗代町から指定管理を受けている「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」では、福島県の水環境保全・調査研究及び環境教育普及活動に関する事業を行い、積極的に情報発信する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

平成12年度の開館以来、指定管理委託料の額が減少しているが、事業収入の安定確保や支出の見直し等により、平成22年度までは良好な収支バランスが維持でき、安定的な経営を行ってきた。

しかしながら、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故による風評被害により、当館を取り巻く環境は一変し、当期収入額に占める事業収入が減少する等、将来が不透明な状況にある。

令和4年度は、光熱費及び燃料費の価格高騰に対する県からの補填が5千4百万円あったため、県受託事業の当期経常増減額はマイナス3千2百万円ですんでいるが、収支バランスは大幅に崩れているため検討が必要である。

2 サービス向上策の評価

年中無休営業を継続するとともに、GWなどの超繁忙期には開館時間を繰り上げたほか、新たに入館待ち列をチケットの有無により2列に分けることによって、入館待ち時間を大幅に短縮した。また、新たな展示エリアのオープン、新たな企画展やその関連イベントの開催、新たに解説員による解説及び体験活動を提供するなど、来館者サービスの向上に努めた。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

(1) 計画性

経営計画については、東日本大震災の経験を踏まえ、令和元年度に「中長期計画2019年度～2023年度」が策定された。本計画は、「海を通して『人と地球の未来』を考える」という法人の基本理念を確認する一方で、その前身である「中長期計画2014年度～2018年度」の反省に加えて、依然として根強い風評や近県水族館のリニューアル等業界環境の変化といった現状分析を反映し、環境水族館路線の堅持、他の水族館にない展示・プログラムの展開、連携交流の促進等に取り組む内容となっているため、マネジメントサイクルが確立されていると認められる。

(2) 成果目標と達成状況

本計画において5つの成果目標が掲げられている中で、令和4年度も設定した目標5項目のうち、3つの項目については、東日本大震災に係る原発事故の風評や大規模自然災害、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響による入館者数の落込等により、達成できなかった。しかし、入館者数については約58万人と、震災後では平成25年度に次いで2番目に多い数字となった。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

経営計画に沿った事業構築を行う一方で、個々の事業を改善していくために、アンケート調査の実施、地域の団体との意見交換等を通して、利用者や地域のニーズの把握にも努めている。

3 令和4年度実施事業に対する評価

(1) 設立目的及び公益性に照らした事業の評価

令和4年度に実施した飼育展示事業その他の各種事業は、海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全などに関する教育普及を実施するという法人の設立目的に合致するとともに、公益事業としてふさわしいものであったと認められる。

飼育困難生物の畜養や深海性生物の採集を行い、魅力ある展示に努めたほか、季節ごとのイベントや様々な企画展を開催し、誘客と来館者サービスの向上に取り組んだことは評価できる。

(2) 公益事業と収益事業のバランス

収益事業であるミュージアムショップ等の事業とレストラン事業は、ふくしま海洋科学館利用者の利便性を図る目的で実施しており、公益事業に附随する事業であり、収益事業による事業は、公益事業の財源として活用されている。

その事業規模は、公益事業と対比して2分の1以下となっているため、バランスは適正である。

(3) 社会情勢を踏まえた必要性

「持続可能性」と「命の教育」を中心とした環境教育活動は、現代的な課題である環境問題の解決に向けた取り組みであり、その重要性はますます高まるものと考えられる。

また、自然体験による学習交流支援、放射能汚染問題にかかるニーズは大きくなるものと考えられる。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 県の財政的関与にかかる自己点検について

光熱水費及び物価高騰の影響を大きく受け、法人の経済的かつ効率的な施設の運営をもってしても、令和4年度の法人の財務状況として大幅な負担増を余儀なくされたため令和4年度の指定管理委託料の増額を行った。

今後の収支バランスの安定を図る上で様々な変動要因があることから、引き続き法人の財務状況について注視していく必要がある。

2 収益事業について

ミュージアムショップ等事業、レストラン事業等の収益事業については、その利益の一部が他会計に繰り入れられて、公益事業を実施するために有効に活用されているが、今後とも創意工夫により収益事業会計収益の安定を図る必要がある。

【参考】収益事業会計収益及び他会計への繰出額 ※ () 書きは他会計への繰出額

令和4年度	287,573千円	(26,433千円)
令和3年度	220,578千円	(3,073千円)
令和2年度	229,398千円	(16,081千円)
令和元年度	276,142千円	(27,030千円)
平成30年度	277,316千円	(29,780千円)
平成29年度	317,365千円	(50,886千円)
平成28年度	406,497千円	(80,825千円)
平成27年度	379,621千円	(122,164千円)
平成26年度	341,767千円	(107,145千円)
平成25年度	337,760千円	(107,471千円)
平成24年度	337,016千円	(85,000千円)
平成23年度	233,487千円	(40,000千円)

3 経費節減について

施設管理費について、令和4年度は前年度の実績よりも下回っているが、施設の老朽化が進んでおり突発的な修繕が必要となる可能性があるため、引き続き創意工夫により施設管理の効率化に努める必要がある。

4 サービス向上策について

年中無休営業並びにゴールデンウィーク、夏休み期間及びクリスマス期間の開館時間延長に加え、入館料割引特典等によるリピーター増に務め、SNSによる情報発信の強化や季節に関連したイベントの開催により、来館者サービスを向上させた。

また、団体客の来館時間のきめ細かい調整や多様な決済手段の導入など、コロナ禍においても感染防止対策との両立を図りながら、サービス向上に努めている。

しかしながら、原発事故による風評、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等により、依然として入館者数が震災前の水準まで回復しておらず、収支動向については注視していく必要がある。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点3：課題への対応状況

共通課題1：東日本大震災からの復旧状況

原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況

1 東日本大震災からの復旧状況

平成25年で復旧工事は完了したが、建造物周囲の地盤沈下は依然として続いており、段差や陥没が生じている。盛り土の締めりだけではなく、地中梁の下から土砂が建物のピット内に崩れている個所もあり、中にはBIOBIOかっぱの里の観覧通路が陥没した例もあるため、大規模改修計画を策定の上、大掛かりな修繕を行う必要がある。

2 原発事故に伴う損失

令和4年度の入館料収入は、平成22年度の836,189,475円に比べて197,102,595円減の639,086,880円となった。これは新型コロナウイルス感染症、人口減少、少子化、娯楽の多様化、隣接県での水族館のオープンなどによる影響のほか、原発事故による風評被害の影響も依然として続いているものと考えられる。

個別課題：

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
1 東日本大震災からの復旧状況 復旧工事については終了したが、地震の揺れ、津波の塩害等及び築22年を経過したことにより建物・設備の劣化が進んでいるため、適切な維持管理を行っていく。
2 原発事故に伴う損失 令和4年度は全国旅行支援等の経済政策の影響により入館者数は回復したが、あくまでも一時的なものであり依然として風評による入館者の減少は今後も続いていくと考えられるため、今後も近隣施設との連携や展示の充実を図り入館者数の増加を目指していく。
個別課題：

2 付表1: 公社概要

公社等の名称	公益財団法人ふくしま海洋科学館					
設立根拠法令	ふくしま海洋科学館条例					
設立年月日	平成10年 4月 1日					
代表者職氏名	理事長 古川 健					
事務所の所在地	福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地					
ホームページアドレス	https://www.aquamarine.or.jp					
県所管部・課	企画調整部文化スポーツ局生涯学習課					
設立目的	海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与することを目的とする。					
経営理念・目標等	<p>公益財団法人ふくしま海洋科学館は、平成21年度から中期経営計画を策定し、それに基づき点検・評価を行い、業務の効率化やコスト削減を行うとともに、展示の質の維持・向上を図ることで経営の健全化を目指してきました。しかし平成23年3月の東日本大震災とその後の風評被害が継続する中、一昨年来のコロナ禍にみまわれ、厳しい運営を迫られています。</p> <p>令和3年7月には新しく古川館長が就任し、前任の安部館長が2003年に世界に向けて発信した環境水族館宣言の運営理念を堅持しつつ、世界に類を見ない展示や体験活動を提供し、子どもたちに希望のある明るい未来を想像させる唯一無二の水族館として、施設の魅力を高め、入館者の確保に努めていきます。また、当財団同様に苦境にたたされている地域の皆様と、共に考え、共に歩み、地域全体でこの状況を打破していきます。</p>					
資本金・基本金	H22末	R1末	R2末	R3末	R4末	R5末予定
(単位:千円)	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
県出資額	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
令和4年度末出資等内訳 (単位:千円) ※県分を除く。	出資順位	団体名		出資額		構成比
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
主な事業内容 (詳細:付表2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋生物(その他の水族を含む)の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業 2. 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業 3. 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業 4. 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業 5. 身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業 6. 上記1から5の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業 7. その他公益目的を達成するために必要な事業 8. ショップ及びレストランの運営等に関する事業 9. 古物営業に関する事業 10. その他上記事業に関連する事業 					

3 付表2:実施事業

1	事業名	飼育展示事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①生物収集事業 展示及び研究目的のための生物(水生生物、陸上小動物及び植物)の採集、購入及び輸送を実施する。</p> <p>②南方系生物畜養事業 南方系魚類(黒潮大水槽及びサンゴ礁水槽展示生物)を収集し、奄美大島の海上生け簀にて蓄養し輸送する。</p> <p>③飼育生物管理事業 収容生物(植物を含む)の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチの環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。</p>						
	目標	<p>①淡水生物、沿岸生物、深海生物、北方系生物、南方系生物、サンゴ礁・マングローブ生物、植物の採集購入により展示内容の充実を図る。</p> <p>②海上生け簀による蓄養・搬入により展示内容の充実を図る。</p> <p>③収容生物の展示・飼育管理等を行う。</p>						
	事業実績	<p>①飼育生物数(各年度末時点)22年度末684種27,495点(東日本大震災により激減)、1年度末1,274種60,385点、61品種882点、令和2年度末1,270種64,539点、61品種882点、令和3年度末1,275種65,766点、61品種882点、令和4年度末1,261種66,856点、61品種882点。</p> <p>②8月8日、同年7月に新種記載された「イワキサンショウウオ」の展示を開始した。</p> <p>9月2日、深海エイ「ザラカスベ」を日本で初めて展示した。また、10月20日には、本館バックヤードで孵化したザラカスベの赤ちゃんを展示した。</p> <p>④9月26日、「バショウカジキ」の展示を開始した。なお、本個体の飼育日数は84日となり、それまで当館が保有していた世界最長記録(75日)を更新した。</p> <p>⑤10月9日、深海魚「ヤワラゲンゲ」を日本で初めて展示した。</p> <p>⑥10月28日、深海魚「カムチャッカゲンゲ」を日本で初めて展示した。</p> <p>⑦水槽数・・・128槽(本館113槽、アクアマリンえっぐ3槽、BIOBIOかっぱの里1槽、蛇の目ビーチ1槽、わくわく里山縄文の里2槽、金魚館8槽)</p>						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
	(単位:千円)	169,490	109,197	90,855	83,029	105,284	49.0%	62.1%
2	事業名	移動水族館事業					継続事業	公益事業
	事業内容	移動水族館専用車アクアラバンにより、各地域・各施設のイベント等へ出展し、海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高める。						
	目標	移動水族館専用車アクアラバンで、各地のイベント等へ出展する。						
	事業実績	<p>移動水族館実施件数・・・22年度12箇所・観覧者16,017名</p> <p>1年度11箇所(13日開催)・観覧者19,522名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)</p> <p>2年度5箇所(5日開催)・観覧者4,685名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)</p> <p>3年度8か所開催・観覧者5,371名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)</p> <p>4年度13か所開催・観覧者19,096名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)</p>						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
	(単位:千円)	26,211	619	172	178	1,049	0.7%	4.0%

3	事業名	研究交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	学会及び各種研究会へ参加し、先進技術情報の収集を行い、展示並びに教育普及活動に反映させる。また、友好締結園館との生物及び技術交換等の交流事業を行う。						
	目標	新規展示開発につながる生物収集、生態研究及び環境保全活動の推進に務める。						
	事業実績	①学術論文 ・生息環境を再現した展示施設において発現したユーラシアカワウソの繁殖・哺育行動(日本野生動物医学会誌掲載):中村ほか2誌 ②学会発表 ・雄クラカケアザラシにおける血中テストステロン濃度と性成熟過程と季節性:平ほか10件						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位:千円)	13,726	5,273	1,498	2,002	12,204	14.6%	88.9%	
4	事業名	海洋文化推進事業					継続事業	公益事業
	事業内容	シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、インドネシア諸島周辺海域等の調査を行う。						
	目標	インドネシア周辺海域等での、シーラカンス生態調査の実施。						
	事業実績	NHKとの共同調査に向けて南アフリカ共和国関係機関との調整を行った。また、インドネシア共和国に出張し、調査活動の再開に向けた打合せを行った。						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位:千円)	17,410	3,785	0	0	575	0.0%	3.3%	

5	事業名	企画営業事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①企画管理事業 接客技術及び利便性の向上等により来館者サービスの向上に努め、来館者の増加を図る。</p> <p>②広報宣伝事業 ふくしま海洋科学館の特色を県内外にアピールするとともに、企画展等の開催が来館者の増加とリピーターの満足度向上に繋がるよう、パブリシティを活用した広報活動や各種媒体による広報宣伝活動を展開する。</p> <p>③観光誘致事業 首都圏及び隣接県を中心に、県内外の旅行エージェント等に対する積極的なPR活動及び営業活動を展開する。また、地域の観光関係団体、観光施設等との連携により一層の誘客を図る。</p> <p>④地域交流事業 周辺地域との交流を深めて地域に根ざした施設づくりを進め、地域振興に貢献する。</p>						
	目標	<p>①受付・案内誘導業務の専門業者への委託、年間パスポートの販売によりサービス向上に努める。</p> <p>②テレビ、ラジオ及びCMの放送、旅行誌等への広告掲載、マスコミへの情報提供、テレビ及びラジオへの出演、チラシ配付、ホームページによる広報を実施。</p> <p>③エージェント等への営業訪問を実施する。観光懇談会、キャラバン等へ参加し積極的な誘客事業を行う。</p> <p>④小名浜港まつりへの協賛、あぶくま発見の旅サポート事業の推進、まちづくり市民会議への参画。</p>						
	事業実績	<p>①年間パスポート販売件数・・・22年度8,386件、1年度6,314枚、2年度5,820枚、3年度4,819枚、4年度7,720枚。</p> <p>②テレビCM放映局数(県内、県外)・・・22年度40局、1年度16局、2年度12局、3年度14局、4年度14局</p> <p>③観光券取扱契約業者からの送客数・・・22年度23,712人、1年度9,776人、2年度2,935人、3年度10,248人、4年度24,772人。 旅客斡旋手数料支払契約業者からの送客数・・・22年度11,145人、1年度3,644人、2年度832人、3年度4,276人、4年度17,544人。 コンビニ店舗における前売券販売による集客・・・入館者数(1年度13,093人、2年度6,254人、3年度5,425人、4年度17,710人)</p> <p>④小名浜まちづくり市民会議等への参加等、周辺地域との交流を深めた。</p>						
事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22	
(単位:千円)	158,925	117,133	129,668	135,618	118,763	85.3%	74.7%	

6	事業名	学習交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①解説活動事業 子供から大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象とした解説活動を実施する。</p> <p>②企画展開催事業 来館者サービスと広報を兼ね、常設展示とテーマを定めた企画展を開催する。</p> <p>③展示事業 魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板及び情報ソフト等の更新を随時行う。</p> <p>④学校教育関連事業 学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。</p> <p>⑤情報提供事業 インターネットや機関誌を利用して、活動状況や水生生物及び海などに関する情報を提供する。</p>						
	目標	<p>①海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設を目指す。</p> <p>②「小名浜国際環境芸術祭」「キッズアート展」等の企画展を開催する。</p> <p>③展示の充実を図る。</p> <p>④館内学習、館外授業、ガイダンス及び移動水族館専用車両の活用等により学習支援事業を実施する。</p> <p>⑤ホームページの随時更新、機関紙(AMF NEWS)年4回の発行。</p>						
	事業実績	<p>①12月に解説員を3名採用し、館内での解説活動の準備を行い、3月から大水槽の生き物解説や有料のバックヤードツアー等の活動を開始した。</p> <p>②企画展開催件数(催事も含む)…22年度10件、1年度14件、2年度12件、3年度12件、4年度18件。</p> <p>③えっぐの森に、日本産野生動物の展示とともに、動物の動きにチャレンジできる遊具のある屋外エリア「えっぐの森どうぶつごっこ」をオープンした。</p> <p>④移動水族館専用車による移動水族館の開催…3年度10校806人、4年度27校1,892人。</p> <p>⑤情報コーナーにおいて国内外の友好園館を紹介する展示を実施した。 風評被害払拭に関わる放射線関連の情報を提供した。 ホームページ、フェイスブック、ツイッターで情報提供。機関紙(AMF NEWS)を年3回発行。</p>						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位:千円)	119,660	7,838	6,773	47,908	14,765	40.0%	12.3%	
7	事業名	スクール開催事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①生物や環境、命の大切さなどについての体験を通して楽しみながら学ぶプログラムを提供する。</p> <p>②マジやギンザケ等の釣り体験、調理・食事体験を実施する。</p>						
	目標	<p>①子どものみ、親子等というように、募集対象も異なる多種多様なプログラムを事前参加募集により開催する。オンラインの活用や教材提供等の手法も用いて実施する。</p> <p>②体験を通して、子どもたちに命を頂戴する意味を五感を通して考えていただく。</p>						
	事業実績	<p>①キッズプログラムは8回実施し166名の参加があった。また、下半期から、「飼育員と学ぼう」と題した、飼育員が様々なテーマでレクチャーを行う新たな体験プログラムを6回開催し、79名の参加があった。</p> <p>②感染症対策のため同時に参加できる人間を制限して実施した。参加者数:1年度19,082組、2年度8,508組、3年度8,778組、4年度16,454組。</p>						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位:千円)	20,077	31,521	17,445	17,476	28,583	87.0%	142.4%	

8	事業名	ボランティア等活動事業					継続事業	公益事業
	事業内容	アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進していく。						
	目標	バックヤードツアーの実施、アクアマリンえっぐでのプランクトン解説等。						
	事業実績	ボランティア登録者数…22年度末237名1年度216名、2年度受け入れ休止(コロナのため)、3年度162名、4年度165名。						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位:千円)	2,245	1,743	1,466	1,087	873	48.4%	38.9%	
9	事業名	施設管理事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県との協定に基づきふくしま海洋科学館、水生生物保全センター、子ども体験館アクアマリンえっぐ及び海水取水・送水施設並びに備品等の県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。						
	目標	施設及び車輛の維持管理。						
	事業実績	主要維持管理施設…本館等敷地56,189.52㎡、本館延床12,935.11㎡、水生生物保全センター延床 925.09㎡、子ども体験館アクアマリンえっぐ1,266.7㎡、取水ポンプ棟84.43㎡、ろ過送水棟180.04㎡、わくわく里山・縄文の里関連施設1,509.56㎡						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位:千円)	390,577	368,757	379,463	468,598	412,109	120.0%	105.5%	

10	事業名	ミュージアムショップ等事業					継続事業	収益事業
	事業内容	ふくしま海洋科学館の来館者に思い出や感動を持ち帰っていただく財団直営のミュージアムショップを運営し、来館者サービスの充実を図る。						
	目標	売り上げ状況分析やオリジナル商品の開発に積極的に取り組み、売り上げの増加を図る。						
	事業実績	売上… 22年度282,063,891円、1年度182,372,013円、2年度127,256,782円、3年度139,793,179円、4年度243,608,726円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 207,986	R1決算 161,132	R2決算 121,556	R3決算 125,268	R4決算 195,388	R3/H22 60.2%	R4/H22 93.9%
11	事業名	レストラン事業					継続事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしま「海を食べる」をテーマにおいしい水族館を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、来館者の利用促進、満足度向上と魚食普及を図る。						
	目標	水族館らしいオリジナルメニューを開発し、おいしい水族館として定着させ、収益増を図る。						
	事業実績	売上… 22年度37,392,835円、31年度42,932,500円、2年度27,252,400円、3年度26,579,460円、4年度50,982,255円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 49,995	R1決算 52,459	R2決算 49,332	R3決算 39,191	R4決算 47,571	R3/H22 78.4%	R4/H22 95.2%
12	事業名	アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに、統括的な事業展開を行う。						
	目標	①絶滅が危惧される水生昆虫や両生類等の保全を図る。 ②参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動を図る。						
	事業実績	①福島県の河川・湖沼についての展示を行うとともに、希少淡水魚繁殖保全水槽にて絶滅が危惧される生物の展示を行った。また、県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示を行い、生物多様性について情報発信を行った。 ②釣り体験や小川水槽等の体験型展示を通じて環境保全や教育普及を行った。						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 —	R1決算 78,832	R2決算 78,885	R3決算 81,191	R4決算 87,870	R3/H22	R4/H22

4 付表3:経営状況

区 分		H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
収 支 の 状 況	① 収入	2,016,339	2,206,404	1,723,539	1,916,975	2,275,046	95%	113%
	当期収入合計	1,811,389	1,291,726	978,258	1,325,492	1,486,533	73%	82%
	うち基本財産運用収入	1,778	114	73	0	161	-	9%
	うち事業収入	1,201,042	874,094	557,299	548,115	1,001,901	46%	83%
	うち補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)	541,615	417,518	420,886	777,377	484,471	144%	89%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	うち特定預金取崩	66,954	0	0	0	0	-	-
	前期繰越収支差額 ^{※1}	204,950	914,678	745,281	591,483	788,513	289%	385%
	② 支出	1,838,355	1,457,644	1,470,446	1,431,991	1,512,374	78%	82%
	うち人件費総額	424,208	454,184	458,478	440,009	453,131	104%	107%
うち人件費総額管理費(除人件費)	402,188	375,914	382,946	472,374	416,210	117%	103%	
うち事業費(除人件費)	1,011,959	627,546	629,023	519,608	643,032	51%	64%	
③ 当期収支差額 ^{※2}	-26,966	-140,312	-491,857	-106,336	1,426	394%	-5%	
④ 次期繰越収支差額 ^{※1}	177,984	745,281	591,483	788,513	809,658	443%	455%	
財 産 の 状 況	① 資産	2,450,327	2,555,484	2,021,216	1,969,697	1,977,628	80%	81%
	流動資産	563,491	967,184	744,451	992,671	1,019,970	176%	181%
	固定資産	1,886,836	1,588,300	1,276,765	977,026	957,659	52%	51%
	② 負債	514,982	538,653	496,575	551,554	585,326	107%	114%
	流動負債	372,654	221,902	152,968	204,157	210,312	55%	56%
	うち借入金	0	0	0			-	-
	固定負債	142,328	316,751	343,607	347,397	375,014	244%	263%
	うち借入金	0	0	0	0		-	-
	③ 正味財産	1,935,344	2,016,829	1,524,641	1,418,143	1,392,302	73%	72%
	うち当期増減額	19,703	-165,919	-492,188	-106,499	-25,841	-541%	-131%

5 付表4:経営分析

区 分	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
①公益事業比率	82%	84%	89%	88%	82%	107%	100%
支出額計	1,838,355	1,457,645	1,470,446	1,431,991	1,512,374	78%	82%
公益事業支出額	1,502,886	1,231,265	1,301,886	1,256,044	1,239,358	84%	82%
収益事業支出額	335,469	226,380	168,561	175,947	273,016	52%	81%
②直営事業比率	96%	90%	85%	78%	80%	82%	84%
支出額計	1,838,355	1,457,644	1,470,446	1,431,991	1,512,374	78%	82%
直営事業支出額	1,757,172	1,306,125	1,254,446	1,117,220	1,215,450	64%	69%
再委託事業支出額	81,183	151,519	216,000	314,771	296,924	388%	366%
③自主事業比率 (自主事業/支出額計)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
④施設等利用人数 (行政客体)	861,326	533,459	339,855	335,538	584,564	39%	68%
⑤施設等稼働率						-	-
⑥補助金等(補助金・負担金・交付 金・委託料等)比率 (補助金等額/当期収入合計)	30%	32%	43%	41%	21%	135%	71%
⑦流動比率 (流動資産/流動負債)	151%	436%	487%	486%	485%	322%	321%
⑧管理費比率 (管理費/支出額計)	22%	26%	26%	33%	28%	153%	126%
⑨人件費比率 (人件費/支出額計)	23%	31%	31%	31%	30%	132%	130%
⑩借入金比率 (借入金/資産)	0%	0%	0%	0%	0%	-	-
⑪一人当たりの人件費 (人件費/総職員)	5,050	5,221	5,270	5,116	5,526	101%	109%
⑫一人当たりの事業収入 (事業収入/総職員)	20,746	14,846	11,244	15,412	12,218	74%	59%
⑬補助金等(補助金・負担金・交付 金・委託料等)に含まれる人件 費比率(人件費/補助金等)	78%	109%	109%	57%	94%	72%	119%
⑭事業収入に含まれる人件費比率 (人件費/事業収入)	24%	35%	47%	53%	45%	216%	186%

6 付表5:組織人員体制

1 役職員の状況

(単位:人)

区分	H22末	R1末	R2末	R3末	R4末	R5(4/1)	R4/H22	R5/H22
役員 (監事含む)	常勤役員	2	2	2	2	2	100%	100%
	プロパー	1	1	1	1	1	100%	100%
	民間						-	-
	県OB						-	-
	県現職派遣	1	1	1	1	1	100%	100%
	その他						-	-
	非常勤役員	10	8	9	9	9	90%	90%
	民間	7	7	8	8	8	114%	114%
	県OB						-	-
	県現職	2	1	1	1	1	50%	50%
	その他	1					-	-
	合計	12	10	11	11	11	92%	92%
職員	常勤職員	41	48	47	48	47	115%	115%
	プロパー	35	45	44	45	44	126%	126%
	民間						-	-
	県OB						-	-
	県現職派遣	6	3	3	3	3	50%	50%
	その他						-	-
	非常勤職員	41	38	40	36	35	85%	100%
	嘱託員	2	4	4	4	3	150%	150%
	臨時職員	34	2	5	1	4	12%	15%
	人材派遣						-	-
	その他	5	32	31	31	28	560%	660%
	合計	82	86	87	84	82	100%	107%

2 職員の年齢構成 (令和5年7月1日現在)

(単位:人)

区分	~30歳	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~
管理職員	プロパー					3	2	
	民間							
	県OB							
	県現職派遣					1		
	その他							
	合計	0	0	0	0	1	3	2
一般職員	プロパー	5	5	8	4	10	5	1
	民間							
	県OB							
	県現職派遣	1		1				
	その他	12	2		2	4	3	4
	合計	18	7	9	6	14	8	5
総計	18	7	9	6	15	11	7	

7 付表6: 県の関与状況

区 分		H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5当初	R4/H22	R5/22
財政的関与	①補助金等	479,530	387,869	393,150	740,771	441,805	387,594	92%	81%
	補助金	35,000	25,685	30,966	25,685	25,685	25,685	73%	73%
	負担金							-	-
	交付金							-	-
	委託料		275	275				-	-
	指定管理料	444,530	361,909	361,909	715,086	416,120	361,909	94%	81%
	②貸付金							-	-
	③損失補償額(契約額)							-	-
	④債務保証額(契約額)							-	-
	人的関与	⑤役員就任(監事を除く)	2	2	2	2	2	2	100%
常勤役員		1	1	1	1	1	1	100%	100%
県OB								-	-
県現職派遣		1	1	1	1	1	1	100%	100%
上記以外の職員								-	-
非常勤職員		1	1	1	1	1	1	100%	100%
三役								-	-
部局長		1						-	-
県OB								-	-
上記以外の職員			1	1	1	1	1	-	-
⑥監事就任		1	1	0	0	0	0	-	-
三役								-	-
部局長								-	-
上記以外の職員		1						-	-
⑦評議員就任		1	1	1	1	1	1	100%	100%
部局長			1	1	1	1	1	-	-
上記以外の職員	1						-	-	
⑧職員派遣	6	3	3	3	3	3	50%	50%	
管理職員	1	1	1	1	1	1	100%	100%	
一般職員	5	2	2	2	2	2	40%	40%	

8 別紙1

区分	名称	R4決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金	利用料金免除事業補助金(福島県)	25,685
	広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。	
	補助金額合計	
負担金		
交付金		
委託料		0
	委託料額合計	
指定管理料	指定管理者制度に伴う管理委託料(福島県) 県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興に資するふくしま海洋科学館の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	416,120
貸付金		
損失補償額		0
	損失補償額合計	
債務保証額		0
	債務保証額合計	

9 別紙2 役員の状況

令和5年6月末現在

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日
					現任期満了日
理事長	1	古川 健	常勤	ふくしま海洋科学館館長	R3.6.28 R7.6評議員会の日
副理事長	1	(空席)			
専務理事	1	(空席)			
常務理事	1	大槻 立志	常勤	ふくしま海洋科学館副館長	R5.6.23 R7.6評議員会の日
理事	4~12	小宮輝之	非常勤	前上野動物園園長	H25.4.1 R7.6評議員会の日
		川田雅雄	非常勤	小名浜まちづくり市民会議 副会長	H28.6.22 R7.6評議員会の日
	田中 明	非常勤	元中東協力センター 審議役	H28.6.22 R7.6評議員会の日	
	藪本美孝	非常勤	北九州市立自然史・歴史博物館 魚類担当学芸員(自然史担当係長)	H29.6.21 R7.6評議員会の日	
	高田浩二	非常勤	海と博物館研究所所長	R5.6.23 R7.6評議員会の日	
	山下治子	非常勤	株式会社アム・プロモーション 代表取締役	R5.6.23 R7.6評議員会の日	
	佐藤みゆき	非常勤	福島県企画調整部文化スポーツ 局次長	R5.6.23 R7.6評議員会の日	
監事	2以内	伊東幸雄		前公立岩瀬病院企業団企業 長	H29.6.21 R7.6評議員会の日
		吉田哲司		東邦銀行常務執行役員 いわき営業部長	R4.6.24 R7.6評議員会の日